

わが校自慢

西小学校

一人ひとりが輝く学校

本校は、昭和53年に開校して今年で28年目を迎えています。

現在、565名の児童が毎日楽しく学んでいます。

正門から入るとすぐに、白鳩の像と「よく遊びよく学べ」の校訓が目に入ります。

白鳩の像は、地域で活躍でき、ひいては日本、世界の平和に貢献できる児童を育てる願いが込められています。

そのために、学校教育目標「自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成」の達成のため、校訓をたいせつに取り組んでいます。

よく遊びでは、昼休み時間を45分にしています。そして、この時間は、子どもたちが、元気に遊んでる姿が校庭いっぱいに見られます。体力や仲間づくりに役だっています。

また、よく学べでは、日々の授業をたいせつに確かな学力をしっかりとつけています。

そのため、少人数指導や教科担任制を進めています。

特に、今年度は、西小の教育を「しらはとの教育」とネーミングして、埼玉県の教育に関する3つの達成目標に全力で取り組んでいます。

一人ひとりが輝く学校を全職員で取り組んでいるのが自慢の学校です。



少人数指導
(4年生算数)



なかよし
タイム
(45分の
昼休み)

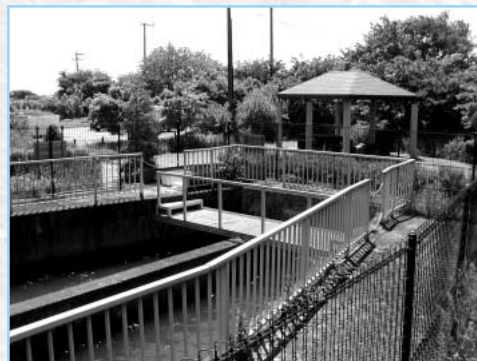
—白岡の古道をゆくvol.3—

みぬまだいようすい
見沼代用水
と
しばやまふせこし
柴山伏越

ふるさと

白岡紀行

現在も重要な「水の路」である見沼代用水は、現在のさいたま市付近にあった見沼の新田開発のため、享保12年(1727)に江戸幕府の要職にあった井沢弥惣兵衛ためながが為永によって開削されました。行田市の利根川取水口から川



現在の柴山伏越

口市付近まで80kmに及ぶ流路は、わずか6か月で完成しました。高度な水準測量により上・下流側から開削し、出会った場所では6cmほどしか違わなかったそうです。また各所で既存河川と交差するための構造物が設けられましたが、その一つが柴山地区にある柴山伏越です(タイトルの絵図)。

柴山伏越は、元荒川の下に大きな樋を埋設し、サイフォンの原理(大気圧により水が重力に逆らって流れる現象)で水を通すものです。当初は川の上を越える掛樋も設置され、通水を補い、水圧による伏越の浮き上がりを防ぐほか、通船にも利用されました。しかし、伏越・掛樋とも木製のため老朽化が著しく、掛樋は早くに廃止され(代わりに土橋が架橋された)、伏越も10~20年ごとに莫大な費用と手間をかけて伏せ替え、修繕が行われました。明治20年に煉瓦造り、昭和2年には鉄筋コンクリート製となりました。伏越の上流側はたいへん危険だったのに対し、下流側は水が噴き出すので子供がよく泳いだそうです。また伏越上流側の常福寺には、井沢弥惣兵衛の墓所があります。



常福寺墓所



昭和初めの伏越

